



Title	Psychosocial Determinants of Mistimed and Unwanted Pregnancy : The Hamamatsu Birth Cohort (HBC) Study
Author(s)	高橋, 俊
Citation	大阪大学, 2012, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/59308
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 ＜a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed >大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

【 4 】

氏 名	たか はし しゅん 高 橋 俊
博士の専攻分野の名称	博 士（小児発達学）
学 位 記 番 号	第 2 5 0 6 5 号
学 位 授 与 年 月 日	平成 24 年 3 月 22 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学 位 論 文 名	大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究科小児発達学専攻 Psychosocial Determinants of Mistimed and Unwanted Pregnancy: The Hamamatsu Birth Cohort (HBC) Study (妊娠を意図しない母親の心理社会的特性 -Mistimed pregnancy と Unwanted pregnancy の違い-)
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 尾内 康臣 (副査) 教 授 片山 泰一 教 授 棟居 俊夫

論 文 内 容 の 要 旨

〔 目 的 〕

心理学において、Mistimed pregnancy(MP)、および unwanted pregnancy(UWP)という、妊娠の企図性を整理するための概念がある。MP は予定よりも早いタイミングで生じた妊娠をあらわし、UWP は避妊したにもかかわらず妊娠すること、あるいは児を全く望んでいないにも関わらず妊娠することをあらわしている。先行研究において、これら 2 つは Unintended pregnancy (UP : 意図しない妊娠) として集約され、母子の身体的精神的健康との関連性について検討されてきた。例えば UP は低出生体重や児童虐待の危険因子であるという報告がある一方で、それらの関連性を否定する報告もある。この不一致の理由として、UP を構成する MP と UWP の属性が異なること、すなわち、意図せず妊娠した女性には属性の異なる 2 群 (MP, UWP) が混在し、研究ごとの構成比率に応じて異なる結果が報告されてきた可能性が指摘されている。しかし、MP と UWP に分類される妊婦にどのような違いがあるのか、具体的な検討は十分なされていない。また、意図しない妊娠と精神疾患（特にうつ病、不安障害）との関連が指摘されているが、MP と UWP はいずれも同様に精神疾患と関連を有しているのか、または特定の精神疾患に特異的な関連を有しているのか、これらについての検討は行われてこなかった。

以上より、本研究では、MP と UWP に分類される妊婦の心理社会的属性の違いについて検討することを目的とした。なお、本研究は「意図しない妊娠」(MP, UWP) が子どもの発達に与える影響を調査する研究の一部をなすものである。

〔 方法ならびに成績 〕

Hamamatsu Birth Cohort Study に参加した 780 名の妊婦を解析対象とした。妊娠の意図は、先行研究の手順に沿って 3

群 (Intended pregnancy, MP, UWP) に分類された。また、3 群に分類された妊婦の属性を反映する指標として、先行研究に基づいて 8 つの心理社会的因子を選定した (母親母国語、母親年齢、母親教育歴、出産既往数、母親就労状況、婚姻状況、年間世帯収入、精神疾患既往歴)。最初に各変数に対してカイ二乗検定を行い、各変数内カテゴリ間の割合が $p<0.10$ の変数を選出し、Multinomial logistic regression を用いて解析した。

780 名中、132 名が MP (17%)、90 名が UWP (12%) に分類された。Intended pregnancy に分類された妊婦を基準として、MP と統計学的関連を示す因子を検索したところ、若年齢 ($<25y$: Odds ratio (OR)=2.6)、就労有 (OR=1.6)、大うつ病既往歴 (OR=2.0) が見出された。一方、UWP と統計学的関連を示す因子を検索したところ、2 人以上の出産既往 (OR=3.9)、低教育歴 ($\leq 12y$; OR=1.7) および高教育歴 ($\geq 17y$, OR= 3.3)、不安障害既往歴 (OR= 2.5)、就労有 (OR= 0.6)、高世帯収入 (≥ 800 万円: OR= 0.4) が見出された。

〔 総 括 〕

本研究において、約 3 割の妊婦が、自らの妊娠を「意図しないもの」と考えていた。その意図を詳細に検討したところ、MP および UWP に分類され、さらに、そこに属する妊婦の心理社会的属性には差異が認められた。今後の研究においては、意図しない妊娠によって生まれる児の予後を一括して評価することなく、MP および UWP ごとに分けて評価することの必要性が示唆された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

心理学において、Mistimed pregnancy(MP)、およびunwanted pregnancy(UWP)という、妊娠の企図性を整理するための概念がある。MPは予定よりも早いタイミングで生じた妊娠を表し、UWPは避妊したにもかかわらず妊娠すること、あるいは児を全く望んでいないにも関わらず妊娠することである。先行研究において、これら2つはUnintended pregnancy (UP : 意図しない妊娠) として集約され、母子の身体的精神的健康との関連性について検討されてきた。多くはUPを単一のものと捉え、UPを構成するMPとUWPの属性について考慮していない、すなわち、意図せず妊娠した女性には属性の異なる2群 (MP, UWP) が混在し、研究ごとの構成比率に応じて異なる結果が報告されてきた可能性がある。そのため、MPとUWPに分類される妊婦にどのような違いがあるのか、具体的な検討は十分なされていない。また、意図しない妊娠と精神疾患（特にうつ病、不安障害）との関連が指摘されているが、MPとUWPはいずれも同様に精神疾患と関連を有しているのかなどが未検討だった。以上より、本研究では、MPとUWPに分類される妊婦の心理社会的属性の違いについて検討することを目的とした。

Hamamatsu Birth Cohort Studyに参加した780名の妊婦を解析対象とした。妊娠の意図は、先行研究の手順に沿って3群 (Intended pregnancy, MP, UWP) に分類された。3群に分類された妊婦の属性を反映する指標として、先行研究に基づいて8つの心理社会的因子を選定した (母親母国語、母親年齢、母親教育歴、出産既往数、母親就労状況、婚姻状況、年間世帯収入、精神疾患既往歴)。統計はMultinomial logistic regressionを用いて行った。

780名中、132名がMP (17%) で90名がUWP (12%) だった。Intended pregnancyに分類された妊婦を基準として、MPと統計学的関連を示す因子を検索したところ、若年齢 ($<25y$: Odds ratio (OR)=2.6)、就労有 (OR=1.6)、大うつ病既往歴 (OR=2.0) が見出された。UWPでは、2人以上の出産既往 (OR=3.9)、低教育歴 ($\leq 12y$; OR=1.7) および高教育歴 ($\geq 17y$, OR= 3.3)、不安障害既往歴 (OR= 2.5)、就労有 (OR= 0.6)、高世帯収入 (≥ 800 万円: OR= 0.4) が見出された。

本研究において、約3割の妊婦が、自らの妊娠を「意図しないもの」と考え、MPおよびUWPに分類された。それぞれにおける妊婦の心理社会的属性には差異が認められた。本研究から、意図しない妊娠によって生まれる児の予後を一括して評価することなく、MPおよびUWPごとに分けて評価することの必要性が示唆された。

審査委員会では、申請者が妊婦の複雑な心理社会的特性を詳細に検討した点を高く評価した。

審査の過程において、申請者に対して次のような質問がなされた。

- 1) Mistimed pregnancy (MP) と unwanted pregnancy (UWP) の相違について

2) MPとUWPの社会的特性や特質、児への影響の有無などについて

3) 国際的な観点からみたMPやUWPの相違や、集団における母国語による違いなどについて

4) 本研究から今後の社会における少子化問題をどのように考えていくべきかについて

これらの質問に対し申請者の解答は適切であり、問題点も十分理解しており、博士（小児発達学）の学位論文にふさわしいと審査員全員一致で評価した。